



令和4年度(2022年度) 学校評価(各評価項目)

令和5年(2023)2月8日職員会資料 学校評価委員会

領域	対象	評価項目 <small>(※大数字は重点目標との関連)</small>	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
学習指導	②	授業の充実・改善	学び直しや習熟度別学習等の授業展開を工夫することにより基礎学力の定着を図り、キャリア教育を意識した授業実践に取り組むことができたか。	各教科の取り組みを経て、年に2回「基礎力診断テスト」を実施した。実施後は、ベネッセ担当者や進路係で検討会を実施し、それぞれの学年の指導の参考とした。基礎力診断テストの結果から学び直しの効果も確認できた。さらに面談等における対話も兼ね基礎学力の向上を継続していきたい。			○	「基礎力診断テスト」の結果を細かく分析し、具体的な改善策を考え、授業に役立てていきたい。また、各学年や教科が連携してキャリア教育の推進を進めていけるように努力したい。
			「授業の五か条」を定着させることができたか。	年度当初に「授業の五か条」を提示し、その重要性を再確認させた。また生徒会による「松高スマホルール3ヶ条」と振り返りアンケートを取っていくことで、授業の受け方について考えさせることができた。今後も、生徒会とも連携して生徒の意識を高め、学校全体で授業の質の向上について考えていきたい。			○	年度当初を始め、折を見てルール確認は今後も継続したい。生徒会活動により授業の2分前着席や「松高スマホルール3ヶ条」、定期テスト前日の「断スマ」など生徒の意識が高くなりつつある一方、ルールを守れない生徒もいるという現実も否定できない。来年度以降も学校全体で授業に関する指導の徹底を図るとともに、生徒の意識の向上に役立てていきたい。
			授業研修の機会をもてたか。	今年度は公開授業の開催ができ、教職員の授業研修の好機となった。初任研修を中心に、相互に授業を参観することにより、授業改善の機会として役立てることができた。			○	授業公開週間のみでなく、日頃から各教科内や教科の枠を超えて、授業を参観し合い、授業改善につながるよう研修を深めたい。また、新たに整備されたICT機器を有効活用し授業を充実させたい。
教育課程	③	教育課程及び個に応じたエリア選択の設定	エリア選択のガイダンス指導は適切にできたか。	1学年のエリア選択説明会および体験授業を実施し、各自の進路希望実現に向けて、適切なエリア選択ができるよう指導した。希望者の偏りが著しいものがあり調整が大変だった。			○	エリアの選択は、進路を左右する重要な決断である。進路指導と連携して全体の進路意識の高揚を図るとともに、個別指導を通して早めに進路の方向を決定し、保護者の同意も確認した上で、慎重にかつ的確に指導していく必要がある。
			エリア制の目標に即してカリキュラムの充実を図ることができたか。	「総合的な探究の時間」を通して自らの進路をどう切り拓くかを考えられた。全学年が同時間帯に授業を行うので学校全体での充実を図ってきたい。また、今年度から始まった新教育課程における次年度以降のシラバスの作成を行った。今後もさらに研究を続けたい。			○	「総合的な探究の時間」を有意義な時間とするために、多方面から情報を収集してさらに充実した内容となるよう研究したい。また、進路希望調査を分析し、生徒の進路の傾向を見極めながら、各エリアのさらなる充実を図りたい。
進路指導	③	生徒の自主的な進路選択が可能となるように必要かつ有益な情報提供を行い生徒一人ひとりに対する万全のサポート体制をつくりあげること	関係諸団体と緊密な連携を図ること 進路指導上必要と思われる情報の収集、管理、提供を的確に行うこと	監督官庁・商工会等の関係諸団体との連携は十分になされたといえる。本年もコロナ禍であったが、産業視察・地域企業説明会等の生徒・職員の仕事に参加することができた。本年度においても関係諸団体と緊密な連携を取りつつ生徒・保護者に有益な情報提供を心がけることができた。また、進路指導に関する情報管理については、法令・通達等に基づき細心の注意を払い適切に行ってきた。			○	他校の進路指導担当との情報交換・連携も十分に行っていく必要がある。新型コロナ感染対策を常に考慮しつつ、関係諸団体・諸団体にこれまで以上の協力を仰いでいく。特に参加型の産業教育行事は、生徒たちが職種選択・事業所選択を行うにあたって非常に有益であるので、可能な限り協力をお願いし、参加していきたいと考える。
			大学・短期大学・専門学校の内容や公開授業、選抜方法等に関する情報を適切に提供することができたか。	各校のオンライン等を利用した学校紹介・公開授業の企画・実施(主としてコロナ禍による)予定を希望者に呈示し、オンラインガイダンスの有効活用を促した。大学・短大・専門学校の広報担当者より入試制度、新型コロナ感染防止対応等の必要情報を収集し、希望生徒・保護者に適宜的確に情報を提供することに努めた。			○	来年度も新型コロナ感染対策を行いつつ、様々な制約下での進路情報の提供を適切に行っていかなければならない。進路指導関係の外部団体にこれまで以上の協力をいただき、参加態様に工夫を凝らしていただき、オープンキャンパス等の学校説明会に参加させていきたい。大学・短大・専門学校との連携を強化し、出張説明会・出張授業等を実施することで生徒への的確な情報提供を行う。
			各事業所の求人情報を迅速に収集し、受験希望企業への決定に有益な情報を提供することができたか。	管轄ハローワークおよび各事業所の採用担当者よりいただいた新卒求人情報に基づき、事業所選定にあたっての有益な材料を提供することができた。特に直接推薦依頼をいただいた地元(南信地区)事業所の求人情報を重点的に呈示し、生徒たちの地元有力企業への受験を促すことができた。			○	新たな変異株のコロナウイルスの感染が広まることも懸念されるなかで、各事業所の来年度の求人予定が未定数であり、円安・物価高騰等による新卒求人数の減少というリスクも想定しつつ、指導内容の組み替えや再検討を行う必要もあると考えている。感染対策等による制約下でも、臨機応変の展開を行うことができるような体制づくりを心がけていきたい。そのためには監督官庁、関係諸団体、各事業所の担当者との連携を一層強めていくことが大切であると考える。
教育活動	①	安全な学校生活の保障	生徒の進路希望状況を学年スタッフと共有し、進路実現のための協働的なサポート体制を構築することができたか。	各学年の進路指導展開のためのステージ設定・指導内容の作成及び実際の指導に関し、新型コロナ感染対策を十分図りながら、各学年の進路指導担当と進路指導室担当者が中心となり、盤石な指導体制をつくり上げ良好な成果を上げることができた。大学等の学校推薦型選抜入試推薦依頼件数の減少はなかったが、今後の減少も想定し、学校推薦型推薦入試に対する受験対策(面接・小論文等)をこれまで以上に強化していく必要があるといえる。また生徒に、受験生としての心構えを日々の学校生活のなかで教え込む必要がある。			○	今後の進路指導は、不測の状況に応じた臨機応変かつ迅速果敢な対応を心がけなくてはならない。生徒たちが採用試験・入学試験を突破するのに何が必要で何を求められているのかを状況の変化に合わせて把握し、各学年会としっかりと連携し指導を展開したい。学校推薦型推薦入試受験を希望する生徒に対しての面接指導及び小論文指導に関し、該当教科と連携しつつさらに充実させていきたい。進路実現のための高校生としての基本マナーを、進路講話等で啓発し、生徒たちの意識を高める取り組みも強化していく。
			担任・生徒支援・生徒指導などの連携による情報収集を行い、問題行動があった場合には学年・生徒指導を中心に、迅速かつ的確に対応できている。	担任・生徒支援・生徒指導などの連携による情報収集を行い、問題行動があった場合には学年・生徒指導を中心に、迅速かつ的確に対応できている。			○	迅速な対応と正確な調査を念頭に指導が進められてきたが、SNSの利用、特に画像アップに課題があり、さらなる指導や生徒会と連携をしていきたい。
生徒指導	①	基本的な生活習慣の確立	挨拶・通学マナー・上下履きの区別・その時にふさわしい身だしなみの定着ができたか。	多くの生徒が良い挨拶をすることができている。通学マナーについては常々諸方面から指摘がある。身だしなみについては、生徒会と連携して行うことができた。			○	身だしなみについては、生徒会でも積極的に取り組んでいるので引き続き協力していく。通学マナーについても、生徒と共に考え協力していくことが改善に向けて大切だと思うので、身だしなみと同様に取り組んでいきたい。
			スマートフォンについて、ルールやマナー、使い方を生徒が主体的になってコントロールできるように指導できたか。	生徒自らが作るルールを生徒会が主体的になって実践してきたが、今年度も画像・動画アップでの指導が多かった。来年度に向けて、生徒会が中心となってスマホの利用について取り組んでいる。			○	SNS・スマホに関してのアンケートを行い、現在の生徒の実態を把握することが大切であると考える。また、生徒会と協力し、生徒一人一人が自分のスマホ・SNSに利用に対しての実態を把握した上で、具体的に利用方法を伝えることが必要と考える。

領域	対象	評価項目 ※丸数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
生徒会	④	生徒会活動やクラブ活動の活性化	生徒会の行事や活動を主体的に企画・運営させるとともに、全会員を意欲的に参加させることができたか。	4年目となった「松高スマホール」だが、生徒会役員は主体的にルールと関わろうとする姿勢が見られる。全校生徒についてはルールについて全校ディスカッションでも話題とする場を設けることができた。ルールの意義を確認しつつ、授業のみならずSNSでの使い方も現状の生徒の課題となる。			○	「松高スマホール」について全校生徒の意識向上のためにも定期的にルールができた経緯や意義を確認する場面を作っていく。また、スマホの使い方について役生徒会役員でマニュアルなどを作成して使い方などの改善を目指していきたい。
			生徒会の活動方針やテーマを全会員に理解させ、それに則した活動を日常的に継続して展開させることができたか。	「貫く～break through～」のテーマのもと、生徒たちが作り上げたものを根付かせるために活動ができた。全校ディスカッション、NEO班活動、松高祭などを通じ、全校生徒をさらに巻き込んでいくことが課題。			○	コロナ禍により活動を縮小せざるを得ない場面が多くみられたが、コロナ以前にできていた活動を少しずつ取り戻していく。また、生徒会役員が積極的に全校生徒と関わられるよう環境作りをしていく。
			クラブ活動に目標を持って自発的に取り組ませ、意欲的な参加の姿勢を養うことにより、活動を活性化することができたか。	昨年度に比べると各クラブによる練習試合の実施や大会出場ができる機会が増えた。ただし部活動によっては加入する生徒が減少したことにより活動を縮小せざるを得ない部も出てきている。			○	部活の活動場所や活動時間の工夫柔軟に活動できる環境づくりをしていく。また、部長会などを開催して部活動加入の呼びかけを学校全体で投げかけていきたい。
	④ ⑤	生徒会活動、クラブ活動による自発的意欲と実践力および自治能力の育成	生徒会活動など特別活動の指導を通じ、生徒の社会参加を図り、地域に貢献する取り組みを行わせることができたか。	昨年度に引き続き、松川町内の保育園に花を届ける活動ができた。今年度は松川北小学校の生徒との交流も持つことができた。生徒自身が地域に貢献する取り組みを考えられるようにすることが課題である。			○	生徒会が主体となり、松川町や地域住民と交流し、社会参加をする機会を設けていきたい。また、コロナ禍の状況にもよるが可能な限り文化祭を地域の方に見ていただく機会も作ってきたい。
			生徒会活動の指導およびクラブ活動の指導を通じて、生徒の自発的意欲を養い自治能力を育成することができたか。	昨年度に引き続き、諸活動を生徒自身が主体的に計画・実施し成果を感じ取ることで、自発的、自発的精神を養う指導を試みている。また、自分たちの課題を常に自覚させ活動を行っている。学校の主役は生徒であり、自分たちが作っている場所であることをさらに意識させ取り組みたい。			○	自らの活動が何らかの目に見える成果として現れる工夫をすることによってより高い自覚を持てるよう全校参加の活動を計画する。生徒会役員のみならず、全校生徒が全員で作りあげる生徒会を目指す。
教育相談	①	教育相談の充実(不適応生徒への対応)	対応を必要とする生徒の状況の把握を行う体制が構築できたか。	生徒の状況把握については、週1回の係会や日頃から職員間での情報交換を心がけ、学年会、職員会にて共有することができた。保護者との連携を密にしていきたい。			○	対応を要する生徒の状況を多くの職員で見守り、より細やかな情報交換に努める。従来の口頭連絡や資料共有に加え、データシートの活用等により、的確・有効な対応策を探る。
			関係者との連絡を密に取り、適切、迅速な対応ができたか。	教育支援の専門機関へつなぎ、アドバイスを受けることができた一方で、校内での個別対応については難しさもあった。生徒、保護者、担任と課題を共有し、よりよい方向に進むよう、さらなる理解協力を得ていきたい。			○	正確な情報の把握と共有をするとともに、教育支援の専門機関との連携を密に行う。専門機関について、職員や保護者に周知を図り、相談しやすい環境をつくる。他の事例等も参考に具体的な支援策を策定する。
保健	①	生徒の心身の健康管理と増進、保健衛生の確立	健康診断による生徒の健康状態の把握と、その結果をふまえて早期治療に結びつけることができたか。	コロナの影響で各種健康診断の実施時期がまとまらなかったため、受診等の指導をするタイミングが難しかった。疾病異常者だけでなく、必要に応じて2学期末の保護者懇談時を活用して保護者も含めた保健指導をすることができた。一人一人の問題として今後も改善を続けてもらいたい。			○	健診結果及び受診勧告を配布する際に、都度簡単な保健指導のプリントを配布するなど、健診結果をもとに自身の健康状態の改善に向けて具体的な行動に移せるよう支援していきたい。
			思春期特有の健康問題について生徒自身が気づき、対処できるような指導ができたか。	1学年では県看護協会出前授業による性教育講話を実施。2学年は昨年度をふまえてDVDを視聴しワークシートで学びを深めた。3学年：卒業前の時期に外部から講師をお願いし講演を考えていたが、新型コロナウイルス感染症が蔓延してしまい、今年度は難しい状況であった。今後も各学年毎の性教育を中心とした指導を検討していきたい。			○	1学年に対しては今年度同様、5月に県看護協会出前授業を活用して性教育の実施を計画。2年生については従来どおり性教育の実施。3年生については、卒業前の時期に保健講話の実施を計画。またスマホ依存の弊害について投げかけ、生徒会係とともにこの問題について生徒自身が考える機会を持ち、自己コントロールできる力がつけられるよう取り組む。
			日常の健康観察や欠席、保健室来室状況から支援の必要な生徒に対し適切な対応ができたか。	新型コロナウイルス感染症対策での健康観察や感染防止対策に取り組めるよう、担任等との連携を図り取り組んだ。欠席や保健室来室の多い生徒には職員が話を聴きスクールカウンセラーや専門機関への相談、受診を勧めた。			○	学校の「主役」たる生徒とともに進める新型コロナウイルス感染症の日常健康観察や感染対策の継続。また学年会や係会等での情報共有を密に行い、心のケアについても引き続き対応していくよう努めたい。
教育活動	②	利用しやすい環境づくりと幅広い資料活用	利用しやすい環境づくりができたか。	昨年に引き続き、コロナ対策を行った。閲覧室の書架整理と面展示スペースの確保、書庫の掃除、話題の本のコーナーの工夫などを行った。			○	Classroomも活用した、図書館へ導くための広報活動に重点を置いて取り組む。
			自主的な探究心に応えられる資料を揃え、授業ほか幅広い利用支援を行えたか。	郷土資料の整理、資料の更新で資料充実を努めた。授業支援については、教室に出向いてのClassroomを活用した調査単元にTTで関わることができた。			○	整備されたICT機器の利用とともに図書資料の利用が並行して行えるような利用支援を考えたい。郷土の情報については、デジタル情報の収集を研究したい。
図書視聴覚	① ②	視聴覚教育の充実 人権教育との連携	視聴覚機器の充実と有効活用ができたか。	全学年においてタブレット端末が整備され、授業や部活動の場で有効活用できた。			○	情報機器を授業や行事でさらに効果的に利用できるよう、教員間で情報共有を行いたい。校内の放送機器について再度所在を確認し、老朽化した放送機器については修繕や設置を検討する。
			視聴覚教育・人権教育を通して、生徒の情操教育や学力向上に資することができたか。	合同芸術鑑賞会では学校寄席を鑑賞した。質の高い演目を鑑賞することができ、生徒にもおおむね高評価であった。			○	今後も新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、安全な環境の中実施できるように取り組めるようにしたい。また、芸術鑑賞観劇のマナーについても事前指導を徹底したい。
	①	情報機器の活用体制	情報機器の有効活用が学校全体でできたか。	追加で電子黒板・無線アクセスポイントが整備された。電子黒板用スピーカーを設置し、HR教室での動画視聴時に利用されている。校務や授業・生徒会活動で、電子黒板やタブレット端末の利用数が増加している分、不具合も出てきている。			○	整備されている情報機器を授業や行事で効果的に利用できるように、教員間で情報共有を行う。今後、機器が故障した場合の対応を検討していく必要がある。

